

# 熊本南病院が担う役割について

令和5年2月 独立行政法人国立病院機構 熊本南病院

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### ＜当院の現状＞

#### ①当院の基本理念、基本方針、診療方針

##### 【基本理念】

熊本南病院は、地域に密着した優しく思いやりのある医療をめざします。

##### 【基本方針】

1. 患者さまの人権と意志を尊重した医療に努めます。
2. 地域医療機関と連携し、安全かつ安心な医療で地域の信頼に応えます。
3. 医療の進歩に対応して日々研鑽し、質の高い医療を提供します。

##### 【治療方針】

- ・呼吸器（結核、がんを含めた）の専門的医療を提供します。
- ・神経・筋疾患の専門的医療を提供します。
- ・地域基幹病院として、救急医療を含めた消化器・生活習慣病・循環器疾患、がん診断治療など一般医療の充実に努めます。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

<当院の現状>

②コロナ禍前後の病床運用

<従 前>

1病棟（脳神経内科）	60床		
緩和ケア病棟	16床		
3病棟（結核ユニット）	54床	（一般32床	結核22床）
5病棟（外科・消化器科）	42床		

<コロナ禍>

1病棟（脳神経内科）	60床		
緩和ケア病棟	16床		
3病棟（コロナ病棟）	14床		
※休止病床：	一般32床、結核8床		
5病棟（外科・消化器科・内科・呼吸器）	42床		

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### < 当院の現状 >

#### ② 主な診療実績

##### < 届出入院基本料等 >

- 急性期一般入院料1
- 結核病棟入院基本料 7 : 1
- 障害者施設等入院基本料 10 : 1
- 緩和ケア病棟入院料2
- 地域包括ケア病棟入院医療管理料 (現在休止病床のため取り消し中)
- 感染防止対策加算1

※ 指定障害福祉サービス事業 (療養介護) (定員 26 人)

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### <当院の現状>

#### ②主な診療実績

##### <診療実績等(R元年度実績：コロナ禍前)>

- ・ 平均患者数 入院：128.2人 外来：132.9人
- ・ 平均在院日数 一般病棟（3、5病棟）：21.6日  
結核病棟：122.5日 緩和ケア病棟：23.7日
- ・ 病床利用率 一般：80.5% 結核：33.6%
- ・ 紹介率：63.8%
- ・ 逆紹介率：49.3%

##### <診療実績等(R4年度11月末現在：コロナ禍)>

- ・ 平均患者数 入院：99.9人 外来：112.8人
- ・ 平均在院日数 一般病棟（5病棟）：17.6日（3病棟休止中）  
結核病棟：8.9日 緩和ケア病棟：25.6日
- ・ 病床利用率 一般：80.3% 結核：38.6%
- ・ 紹介率：71.1%
- ・ 逆紹介率：67.3%

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### <当院の現状>

#### ③職員数

・ 医師	常勤	14名	
・ 看護師	常勤	118名	非常勤 3名
・ その他医療職	常勤	25名	
・ 福祉職等	常勤	7名	
・ 事務職等	常勤	15名	

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### ＜当院の現状＞

#### ④特徴

- 国の政策医療の一翼を担うべく、呼吸器疾患、神経・筋疾患、がん疾患を中心とした医療を実施
- 消化器・循環器・肝疾患等の生活習慣病への取り組み
- 原因不明の症状等に対応する総合診療科の開設
- 病診(病)連携を推進

### ＜熊本県からの指定状況＞

◇熊本県神経難病拠点病院

◇熊本県指定がん診療連携拠点病院

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### ＜当院の現状＞

#### ④特徴（続き）

- 第二次救急指定病院としての救急医療への積極的な取り組みや開放型病院としての地域の医療機関・医師会との連携を密にして、地域住民への安全で質の高い医療の提供と情報発信の核となる病院づくりに取り組んでいる。特に2025年の超高齢化社会に向けた在宅医療の推進のために、地域包括ケア病床において、地域の在宅医療の向上に努めている。



# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### ＜当院の現状＞

#### ④特徴（続き）

- ・ 2016年には緩和ケア病棟を整備し、がん診療機能の強化を図るとともに、障害者の療養支援、在宅診療支援のための障害者短期受入事業及び療養介護事業を併せて行っている。
- ・ 急性期病床において呼吸器疾患、がん疾患（呼吸器・消化器・血液）、生活習慣病（消化器・循環器・肝疾患等）を、慢性期病床において神経・筋疾患、緩和ケア医療を中心に受入れている。
- ・ 2020年8月から新型コロナウイルス感染症陽性患者の受け入れを開始。併せて感染爆発に伴い医療機関が逼迫した地域に対して、厚労省、NHQからの要請により看護師を派遣。（大阪、沖縄、東京）  
また、熊本県及び下益城郡医師会からの要請により、当院ICNがクラスターが発生した高齢者施設へゾーニングやPPE装着等指導介入を行った。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### <当院の現状>

#### ⑤公的・その他機関、地域との連携

- ・ 難病（パーキンソン病その他の神経・筋疾患）の熊本県拠点病院
- ・ 熊本県指定がん診療連携拠点病院
- ・ 救急告示病院（ホットライン設置）
- ・ 松橋地区アスベストによる胸膜肥厚斑の判定と追跡調査、健診
- ・ 健康診断の二次精密検査の実施
- ・ 開放型病院（登録医数：76名）
- ・ 熊本県における結核医療を担っている。
- ・ 令和2年8月より新型コロナウイルス感染症陽性患者を受け入れており、熊本県から重点医療機関に指定。
- ・ CT、MRIの共同利用の推進

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

<当院の課題>

### ⑥当院の課題

#### ・診療機能について

神経・筋疾患、呼吸器疾患、がん疾患に強みを持っているが、他の急性期病院と比較すると、病室は大部屋を中心とした構成となっており、個室管理が必要な患者の収容等において、地域のニーズに十分に応えられない状況である。

また、医師については、24時間365日の診療体制を維持していくうえでの絶対数が不足しており（14人）、年齢層も高く、診療業務当直など負担が大きい状況となっている。

コロナ専用病棟体制構築する際、特に看護師のマンパワー確保のため3病棟（一般病床）を閉鎖せざるを得ない状況である。

#### ・神経・筋疾患について

2010年に熊本県神経難病拠点病院の指定を受け、神経難病センターを開設したが、圏域唯一の専門診療施設として、医療を提供するための体制を維持、更に充実させることが必要である。また、脳神経・脳血管疾患への対応、専門医療機関との連携も必要である。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

<当院の課題>

⑥当院の課題（続き）

### ・呼吸器疾患について

圏域随一の専門施設として、県全域における結核、肺癌の内科的・外科的包括診療を行っている中、高齢化に伴う慢性呼吸器不全への対応が必要となっている。

また、結核診療について地域の結核患者数の減少に伴い、2016年4月に結核病床を減床（49床→22床）したが、患者の高齢化や精神疾患（認知症）等の合併症といった問題が生じてきており、精神科病院の結核モデル病床による受入体制が待たれるところである。

当院では、今後も結核病床にてコロナ陽性患者を受け入れていくことから、「コロナ」と「結核」を同一病棟での対応が出来ない。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

＜当院の課題＞

### ⑥当院の課題（続き）

#### ・がん診療について

熊本県がん診療拠点病院の指定を受け、5大がん及び血液がんの診断治療の充実及び緩和治療にも取り組んでいるが、地域医療の発展のために地域連携を更に推し進めていく必要がある。特に、2016年4月に開設した緩和ケア病棟を更に有効に運用していくために、熊本市・八代市や、当医療圏域との病診・病病連携を図り、がん診療の早期の時点からの緩和医療への取り組みを進めていく必要がある。（以前からの懸案であった精神科医師は現在週一回ではあるが支援頂いている）

#### ・設備面について

2020年8月から新型コロナウイルス感染症陽性患者の受入を開始し、院内感染防止の観点から個室療養が望まれているところだが、圧倒的に個室が不足していること。また、築40数年経過しており、ライフライン設備の老朽化とともに、医療環境が現在と乖離していることから、早急な全面建替又は大規模改修等が必要。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

- ・ 来たるべき超高齢社会に対応できるよう、同一医療圏内において他病院との機能分化を進めるとともに、専門医療を強化する一方、複数領域の疾患や合併症への対応、退院後の在宅移行を積極的に推進するとともに在宅医療との連携強化（急変時の収容等）を図る必要がある。
- ・ 診療3分野の専門性を高め、一般医療においても地域医療機関や施設との連携を深める。
  - (1) 「神経難病」
    - ・ 熊本県の神経難病拠点病院として、神経難病センターによる神経難病の診断・治療・研修の取り組み、地域医療機関への積極的広報と看護技術研修などを通じ地域との連携強化を図る。（療養介護サービスの推進を含む）
  - (2) 「がん診療」
    - ・ 5大がんに対応するため、外科治療、化学療法、緩和ケアを組み合わせ、患者に最適な集学的治療を行い診療から終末ケアまでの手厚い医療の提供を目指す。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

#### (3) 「呼吸器疾患」

- ・結核の専門医療機関として以下を取り組んでいく。
  - 1) 予防・診断・治療・撲滅への取り組み
  - 2) 結核・がんを含む呼吸器疾患全般の包括診療を行う。
  - 3) 県内唯一の多剤耐性患者受入機関として今後も担う。
  - 4) 近年増加している難治性感染症としての非結核性抗酸菌症に対する専門医療を強化。
  - 5) 診療体制を維持していくうえでの、医師の確保
- ・結核病床に関しては、結核病棟自体の不採算性（人件費の見合った収益がない）の問題があり、今後は規模を更に縮小したいと考えている。地域の結核ニーズ、患者数の減少に応じた病床数としたい。
- ・新型コロナウイルス感染症の対応は呼吸器科医師が中心となり圏域及び圏域外の陽性患者を積極的に受け入れている。なお、受入患者は高齢者が多く、基礎疾患の重篤化や認知症への対応に日々取り組み、今後も地域医療のために貢献するとともに、この地域唯一の感染症対策加算1取得施設として医療機関と連携し地域の感染対策に貢献する。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

#### (4) 「新興感染症」

- ・ 現在も宇城地域のため新型コロナウイルス感染症陽性患者の受け入れを積極的に行っているところだが、この体制は今後も継続するとともに、今後の新たな感染症に対応すべく、公的医療機関として地域医療に貢献していく。

#### (5) 「地域住民への貢献」

- ・ また、当院は熊本県神経難病及び結核診療の拠点病院として県内のみならず県外からも患者を受入れ、地域保健所等の協力により在宅医療を推進してきた。

今後も県南部における唯一の専門医療機関として脳神経・脳血管疾患への対応も含め生活習慣病などの地域住民のニーズに応えるべく医療を提供していくことが重要と考える。

住民への「健康教育（健康教室等）」を含め行政を巻き込んだ連携に取り組んでいく。

更には小学生、中学生、高校生を対象に「がん教育」を行い、啓発活動を積極的に取り組んでいく。



## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

- ・ 以上を踏まえ、当院が専門としている結核を含めた呼吸器疾患、神経難病疾患を中心に、救急医療や生活習慣病等の住民のニーズに応える一般医療をさらに充実させることが重要である。
- ・ 上記より、病床数については、以下のように考えている。

#### ◇ 1 病棟（神経難病：慢性期 60 床）

熊本県指定難病拠点病院として、人工呼吸器装着患者や在宅患者の急変時、台風等災害時の避難入院、障がい福祉サービス（療養介護）の利用者等を受け入れるため体制を維持する必要がある。

#### ◇ 緩和ケア病棟（がん：慢性期 16 床）

熊本市以南における数少ない緩和ケア病棟として、高度急性期病院での集約的治療を終え地域にもどる患者の受入や、在宅患者の急変時受入等、終末期を安心・安全に迎えられる体制を維持したい。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

#### ◇5病棟（がん、手術、生活習慣病：急性期42床）

熊本県指定がん診療連携拠点病院としてのがん患者の受入や、消化器系及び呼吸器系術後患者の観察、生活習慣病患者の受入とともに、在宅患者や施設入所者の急変時受入病棟として、現体制を維持したい。特に血液がん患者受入のため「無菌室」を整備し患者の治療ニーズに応えたい。

#### ◇3病棟（呼吸器、地域包括ケア、がん、救急：急性期32床＋結核：22床）

##### ※新興感染症対応

呼吸器疾患の専門医療施設として、COPDや非定型抗酸菌症、高齢者の肺炎等幅広い領域をカバーし、地域包括ケア病床による在宅移行支援、在宅患者や施設入所者の急変時受入病棟として現体制を維持しつつ、熊本県指定がん診療連携拠点病院としてのがん患者の受入や、併せて、時間外・休日の救急入院を受入出来る体制としたい。結核ユニットについては、入院患者数の動向を見ながら減床としたい。かつ、新興感染症が発生した際は、直ちに受入ができるよう体制を整えたい。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	0	0	0
急性期	74	74	74
回復期	0	0	0
慢性期	76	76	76
その他	22	22	22
合計	172	172	172

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

※2017年／2023年／2025年の病床機能毎の病床数に変更予定なし

### 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【②診療科の見直し】

※変更なし

	現時点 (2023年1月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、脳神経内科、呼吸器内科、 消化器内科、循環器内科、血液内 科、総合診療科、糖尿病内科、代 謝・内分泌内科、感染症内科、外 科、呼吸器外科、消化器外科、肝 臓・胆のう・膵臓外科、整形外科、 リウマチ科、リハビリテーション科、放射 線科、麻酔科		
新設			
廃止			
変更・統合			

### 3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点( 2022年 11月時点)	2025年
①病床稼働率	58.1%	90.0%
②紹介率	71.1%	75.0%
③逆紹介率	67.3%	70.0%

### 3 具体的な計画

## (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

### 【取組みと課題】

#### <実施中の取組みについて>

- ・ 今後、当院の専門性の高い診療機能（神経・筋、呼吸器、がん）の提供、在宅患者（施設入所者）の病状急変時における救急受入を実施するために、引き続き地域連携の強化に努めていく。
- ・ 併せて、地域完結の医療を実現するため、逆紹介の促進にも取り組んで行く。
- ・ がん診療においては、高齢化社会に合わせた診療を行う。特に患者さんやその家族への負担軽減を目指した診療と在宅療養が出来るよう取り組んでいく。  
また、緩和ケアチームが早期に介入するよう取り組む。  
地域の「がん診療センター」として体制構築を図っていく。
- ・ 高齢化社会が進んでいる中、多疾患併存患者を総合診療科が対応しており、更に強化を進めていく。

### 3 具体的な計画

## (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

### 【取組みと課題】

<実施中の取組みについて> (続き)

- ・ 医療従事者への教育及び育成の強化を図っている。
  - ①熊本保健科学大学との共同で特定行為看護師の育成を実施。
  - ②地域枠医師に対して総合診療医への育成。
  - ③超音波検査が出来る検査技師の確保及び育成。※2040年への働き手不足を見据え、外国人医療者の育成も視野に強化したい。
- ・ 医師の働き方改革について、当院は各医師が960時間以内となるA水準とする予定である。また、令和5年4月から職員の勤務時間をより適切に把握するためICカードを利用した勤務時間システムを導入することにより、長時間労働の削減に向けた取組みを行う。



### 3 具体的な計画

## (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

### 【取組みと課題】

＜実施中の取組みについて＞（続き）

- ・医療従事者確保について、医師は従前より熊本大学医局から派遣して頂き、今後も引き続き連携により確保していく。

看護師等スタッフは、有事の際、マンパワー不足とならないよう、今後も引き続き確保に努めるとともに、離職防止にも併せて努める。  
特に女性が勤務しやすいよう、院内保育所や院内宿舎を完備しているとともに、育児しやすい環境が整っている福利厚生を継続していく。

- ・地域住民の予防対策と早期発見を目的とした「健康診断」や「人間ドック」を積極的に受け入れ、生活習慣病の予防強化を進めていく。

### 3 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 【取組みと課題】

##### <課題について>

- ・他の急性期病院と比較すると、病室は大部屋を中心とした構成となっており、個室管理が必要な患者の収容等において、地域のニーズに十分に答えられない状況である。
- ・医師については、24時間365日の診療体制を維持していくうえでの絶対数が不足しており、職員の年齢層も高く、診療当直業務など負担が大きい状況となっている。
- ・神経・筋疾患においては、圏域唯一の専門診療施設として、医療を提供するための体制を維持、更に充実させることが必要である。また、脳神経・脳血管疾患への対応、専門医療機関との連携も必要である。
- ・呼吸器疾患においては、患者の高齢化に伴う慢性呼吸不全への対応が必要となっている。また、外来・入院双方の診療体制を維持するために、診療体制（医師）の強化が必要である。

### 3 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 【取組みと課題】

<課題について> (続き)

- ・ がん診療においては、緩和医療における精神科医師（常勤医師）の確保が必要である。
- ・ 新興感染症に備え、感染症科医師の確保が必要である。
- ・ 有事の際、医療逼迫となる地域へ医療チームとして派遣できる体制を構築する必要がある。

## 4 その他特記事項

### 【NH0法人としての主張】

- ・ NH0は、全国140の病院から構成される法人で、急性期医療中心の病院のほか、重症心身障害や筋ジストロフィーなどのセーフティネット系の医療を中心とする病院が存在
- ・ NH0がセーフティネット系の医療を提供するに当たっては、急性期医療と一体の全国ネットワークを活かし、医師不足病院への緊急診療援助などの人材確保や資金面での融通などの仕組みを通じて、セーフティネット系の医療を必要とする患者への安定的な医療の提供を担保

## 4 その他特記事項

### 【NH0法人としての主張】

- ・ 全国ネットワークを有するNH0の特徴として
  - ①災害時において、地域外のNH0病院から初動医療班の迅速な派遣
  - ②新興感染症などの緊急事態発生時において、迅速な診療体制の構築（人的・物的な融通を含む）や患者の受入・治療が可能
- ・ 病院によって経営状況は黒字・赤字はあるものの、全病院を合わせて一つの法人であることで安定的な経営を行っており、引き続き地域において安定的に医療提供への貢献が可能

## 4 その他特記事項

### 【コミュニティホスピタルを目指して】

- 超高齢化社会を見据え、「病気」を診る医療ではなく、地域で「治し、支える医療」への転換
- 本来必要な医療を全人的に提供する
- 地域の人にとって、病気の前も後も「ここがあるから安心」と拠り所になる
- この医療を実現するのが、熊本南病院が目指す新しい病院、コミュニティホスピタル